

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.sgepss.org/sgepss/>

第217号 会報 2013年10月15日

目	次	
第27期第3回運営委員会報告	・・・・1	
第134回総会開催のご案内	・・・・4	
秋学会会場での会費納入窓口設置について	・・・・4	
EPS誌のSpringerOpenでの論文投稿の方法などについて	・・・・4	
国際学術交流若手派遣事業の報告 佐藤雅彦	・・・・6	
日本地球惑星科学連合 2013年大会 参加報告 松井宏晃	・・・・7	
IAGA 12th Scientific Assembly 報告 山崎俊嗣	・・・・8	
	IAGA Summer School 2013 in Merida に参加して 南 拓人	・・・・8
	「地磁気・古地磁気・岩石磁気研究会」 分科会報告 菅沼悠介・野木義史	・・・・9
	「宇宙科学奨励賞」候補者推薦依頼	・・・・10
	第21回衛星設計コンテスト最終審査会のお知らせ	・・・・11
	助成公募・学会賞・国際交流事業関係年間 スケジュール	・・・・13
	SGEPSS カレンダー	・・・・13
	賛助会員リスト	・・・・14

第27期第3回運営委員会報告

日時：2013年8月16日（金） 11:00～16:00
場所：JAXA 宇宙科学研究所 研究管理棟 1F 入札・会議室（1134）

出席者 17名（総数 18名、定足数 11名）：中村正人（会長）、山崎俊嗣（副会長）、大塚雄一、小田啓邦、尾花由紀、小嶋浩嗣、坂野井 和代、篠原 育、藤 浩明、中村卓司、長谷川 洋、畠山唯達、馬場聖至、村田 功、村山泰啓、吉川顕正、吉川一朗

欠席者 1名：塩川和夫

0. 前回（第27期第2回運営委員会）議事録の確認し、承認した。

1. 共催・協賛関係（庶務）

➤ 下記の案件を審議し、承認した。

協賛：

・地学オリンピック 2013年度関連事業

主催：地学オリンピック日本委員会

開催期間：2013年9月11～19日開催場所：インド・マイソール

協賛金：一口5万円

・女子中高生夏の学校 2013

開催期間：2013年8月8～10日開催場所：独立行政法人国立女性教育会館

後援：

・「伝統的七タライトダウンキャンペーン」

主催：伝統的七タライトダウン 2013 実行委員会

開催期間：2013年8月12, 13日開催場所：全国各地協力：

・平成25年度内閣府チャレンジキャンペーン

主催：内閣府男女共同参画局

開催期間：2013年度 開催場所：全国各地

2. 入退会審査（庶務）

➤ 以下の正会員（一般）3名、学生会員10名の

入会を承認した（前回運営委員会以降）。

沖野郷子（東京大学、紹介会員：山崎俊嗣・島伸和）

林 祥介（神戸大学、中村正人・今村 剛）

日置幸介（北海道大学、茂木 透・渡部重十）

上村美久（学生、名古屋大学、紹介会員：水野 亮）

小田佑介（学生、大阪市立大学、山口 寛）

中島悠貴（学生、北海道大学、渡部重十）

中西峰之（学生、京都大学、能勢正仁）

幅岸俊宏（学生、金沢大学、八木谷 聡）

藤井昌和（学生、東京大学、山崎俊嗣）

本郷 裕太郎（学生、東海大学、三宅 互）

村仲 渉（学生、信州大学、川原琢也）

梁 朋飛（学生、東京大学、歌田久司）

渡邊歩佳（学生、東京大学、今村 剛）

➤ 前回運営委員会以降、4名の退会申請があった。4名の退会保留者と合わせ、引き続き審議する。

※昨年度までの元学生会員の退会希望者は、新しい規約の対象とならず自動的に退会にならないので、本人から退会申請をして頂くようにすることを確認した。

3. 会計関係（会計）

➤ H24年度決算について、資料に基づき報告された。

➤ H24年度会計監査の状況について、資料に基づき報告された。また監査によって指摘された以下の点を確認するとともに、一部対応を議論した。

- ・シニア会員の会費納付率アップをはかること
- ・秋学会用 CD-ROM 作成費用の金額内訳を示すこと
- ・CD-ROM の作成枚数を調整すること
- ・名簿作成費用を選挙の翌年の会計し、年ごとの支出のバランスを取る
- ・分科会活動・国際交流事業におけるフォローを確実にすること
- ・繰越金の使用に関する長期計画を立てること
- ・学会本会計の支出に当たる「会誌分担金」と EPS の収入に当たる「学会購読料」の科目をそろえること

➤ H25年度予算の執行状況について、EPS 運営委員会からの要望により、EPS 分担金を7月に支払ったこと、若手派遣・研究者招聘費用の支払いは2件が済み、1件今後行われることが報告

された。

➤ PAC との契約内容について、一部実態に合わなくなっているため再考すべき時期に来ていること、現在 PAC からの提案を待っている状況であることが報告された。これについて、各担当から PAC にこれまでに依頼している業務、今後依頼を希望する業務を8月中に総務へ報告し、総務が整理することとした。

➤ H26年度予算について、秋学会の登録システム変更の是非を決める必要があること、消費税増税分を考慮して大きくなる可能性があることが指摘された。

4. 助成・学会賞関係

➤ 国際学術交流事業の審査（助成担当）

若手派遣：

松村充会員 AGU（招待講演）への派遣 22.9 万円

海外招聘：

今井一雅会員 C. A. Higgins 氏 (Middle Tennessee State Univ.) 招聘 18.9 万円

それぞれ2名ずつの審査員の評価が報告され、2件とも採択と決した。

5. 外部の助成・賞への推薦（賞推薦タスクフォース (TF)）

➤ 文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞について、若手科学賞と科学技術賞開発部門にそれぞれ1件ずつ SGE PSS より推薦することを決定した。

➤ 井上學術賞について、SGE PSS より1件推薦することを決定した。

➤ 今後 TF にて、東レ科学技術賞、宇宙科学奨励賞、猿橋賞、藤原賞の推薦候補調査を行うことが確認された。また調査を効率的に進めるため、過去の推薦状況を整理した資料を作成することとした。

6. 秋学会関係（秋学会担当）

➤ 2013 秋学会の進捗状況について報告がなされた。

➤ 学生会員の登録手続きとスケジュールが報告された。

➤ 高知大学学長に出す挨拶文案は今後メールにて審議することが報告された。

➤ 学部学生、高専生、高校生等、招待講演者に関する参加費について、以下の事項を確認した。

1) 見学(発表無し)の場合、参加費はとらない。2) 発表する場合は学生会員に準ずる。3) 引率者は非会員の場合は参加無料。4) 招待講演者からは、高知大会については参加費を取らない(会員の場合は有料)が、来年度以降はもう一度議論する。
➤ 来年度秋学会の開催地と開催期間について議論した。開催地候補との交渉を行い、次回総会までに決定することとした。
➤ 来年秋学会の投稿システムの改訂の是非について、会計・総務・畠山委員・中村(卓)委員で9月中旬に検討することを確認した。

7. アウトリーチ活動について(アウトリーチ担当)
➤ 秋学会のアウトリーチイベントは、会場として高知イオンモールが確保できたこと、11時から夕方まで開催となること、その他の詳細は今後決められることが報告された。
➤ 衛星設計コンテストの状況について、審査が進んでいる段階であることが報告された。

8. 男女共同参画関係について(男女共同参画担当)
➤ 秋学会における保育室利用への対応状況が報告された。
➤ 8月8～10日に行われた女子中高生夏の学校でのSGEPSSの活動が報告された。
➤ 6月26日に行われた男女共同参画学協会連絡会の運営委員会の概要が報告された。

9. Web・メーリングリスト関係(Web担当)
➤ sgepssallメーリングリストの整理について、未着者リストを運営委員会で共有し、あらためて個別に確認していくこととした。sgepssbbとは秋学会の登録が終わってから統合する旨を確認した。
➤ メーリングリストで1MB以上の添付が契約上できない問題について、変更を検討することとした。

10. 広報関係(広報担当)
➤ 会報217号の制作スケジュールと記事予定が報告された。
➤ 会報の発行部数について、学生会員の増加に合わせて増刷するか議論した。これに関し、学生会員にも会報は送ることを改めて確認した。

郵送にはより安価な方法(会報の送付を秋学会プログラムに同封して送る等)をとることとし、部数については広報担当と秋学会担当で適切に判断することとした。

11. EPS 関係報告(EPS 担当)
➤ 前回運営委員会以降の経緯が報告された。概要は以下の通り。
・ 入札の結果、冊子体についてはテラ学術図書出版が、電子出版については、Springer Japanが落札した。
・ EPS 臨時拡大運営委員会にて、著者負担額、特集号のLetterに対する支援、会員著者の定義が決まった。
・ Springer Japanとの契約内容。
・ 編集補助員に関する公募の状況
・ 今後の予定
➤ SGEPSS 旅費内規案について、一部文言を修正し制定と決した。
➤ テラ学術図書出版との覚書き案が報告され、確認された。
➤ 科研費の執行案が資料に基づき報告された。

12. 宇宙探査ロードマップ(探査WG)
➤ 宇宙政策委員会 宇宙科・探査部会からの要請で、ISAS 理工学委員会の下にロードマップ策定WGが設置され、探査ロードマップの検討が進められている。その詳細な背景について会長より説明がなされた。また政策委員会に学会としての1つの大きな意見を出す上では、運営委員会でも十分な議論が必要であるということが指摘された。

13. 宇宙開発体制のあり方に関する「TF 会合・リモートセンシング分科会」
➤ 会長より背景の説明がなされた。産官学による地球観測衛星に関する利用コミュニティをつくって活動していくこと方針をSGEPSSとして賛同することを確認した。利用コミュニティの中で連絡・調整を行うための学会担当者として、運営委員会より大塚委員・村田委員を割り当てた。
➤ 村山委員より、ICSU・国連等が連携して新たに立ち上げている、持続可能な地球環境に関する総合研究イニシアティブ「Future Earth」に関する情報提供があった。

14. 運営委員会資料保存について（総務・庶務）
➤各担当で所持、引き継ぎしている資料を整理することが提案された。総務に情報を送ることとした。

15. その他

➤IAGA 小委員会について山崎副会長より下記の事項が報告された。

・次期以降の IAGA 小委員会メンバーに SGEPPS 分野の学術会議連携会員を推薦できるように準備する。

・次週の IAGA assembly にあわせて行われる Conference of Delegates に山崎副会長が参加する。

・IAGA 関係の情報は、national correspondence を通じて国内に伝達することにして、必要な情報が円滑に共有できるように、IAGA 執行部に要請した。

16. 次回運営委員会・評議会・総会開催日

➤運営委員会 : 11月2日（土）18:10以降

➤評議会 : 11月3日（日）18:10以降

➤総会 : 11月4日（月）午後

（馬場 聖至）

第134回総会開催のご案内

第134回総会を秋の講演会期間中の以下の時に開催します。

開催日時：平成25年11月4日（月）
15:40-18:10

開催会場：高知会館 白鳳の間

学会賞授与などの重要な議事がありますので、会員の方はぜひご出席ください。やむを得ず欠席される場合には、事前に委任状を会長宛てに郵送いただくか、運営委員にお渡しください。また、電子メールでの委任状受領ができます。詳細はメーリングリストにてお知らせします。

（篠原 育）

秋学会会場での会費納入窓口 設置について

平成 25 年度秋学会の講演会場（高知大学朝倉キャンパス）に学会の会費支払い窓口を設けます（4日午後のみ高知会館）。

開設日時は

11月3日（日）14:00-18:10

11月4日（月）09:00-12:20, 13:50-16:00

（午後は高知会館）

11月5日（火）09:00-13:00

の3日間となります。なお、現金のみの取り扱いとなります。

本学会の全ての活動は会員の皆様からの会費で支えられています。会費の納入にご協力をお願い致します。会費支払いについてのご質問は学会事務局

sgepss@pac.ne.jp

までお問い合わせください。

（小嶋浩嗣・大塚雄一）

EPS 誌の SpringerOpen での 論文投稿の方法などについて

欧文誌 "Earth, Planets and Space" (EPS 誌) の完全電子出版化・完全オープンアクセス化について、第132回総会およびEPS運営委員会での決定を受けて準備を進めてまいりましたが、2013年7月にSpringer社との出版契約手続きが完了し、9月17日にSpringerOpenのEPS誌HP（以下URL）にて論文投稿受付開始となりました。

www.earth-planets-space.com

SpringerOpen に投稿された論文は受理され次第すみやかに完全オープンアクセス出版されることとなります。今後は冊子体の印刷を行いません。また投稿方法もこれまでと異なりますので、下記にご注意の上、皆様よりこれまで以上

に活発な投稿を頂けますようよろしくお願いいたします。

論文掲載料について

原則として、投稿論文の著者には論文掲載料をお支払いいただきます。論文掲載料の金額は、EPS 誌を共同出版する 5 学会（地球電磁気・地球惑星圏学会、日本地震学会、日本火山学会、日本測地学会、日本惑星科学会）の会員と非会員によって以下のように異なります。

- ・Corresponding Author（責任著者）が会員：200 ユーロ
- ・Corresponding Author（責任著者）が非会員：600 ユーロ
(ただし日本国内からはどちらもドル建て払いとなります。下記の注 1 参照。)

会員価格の適用について

(1) カバーレターへの会員情報の明記

会員価格が間違い無く適用されるために、投稿時のカバーレターに必ず、その論文の Corresponding Author の会員情報を記載ください。EPS 誌運営委員会が各学会事務局に会員情報を確認する方式をとります。Corresponding Author の会員情報記載は下記のテンプレートに従ってください。

I hereby certify that the corresponding author belongs to the following society supporting the journal. Please apply the discounted article processing charge for society member authors, 200 Euros, on the manuscript.

Name: XXXX XXXX (Corresponding Author の氏名)

Membership: Society of Geomagnetism and Earth, Planetary and Space Sciences

Membership Number: XXXXXXXX (Corresponding Author の会員番号)

投稿時に会員情報に不備があると、非会員の論文掲載料が適用される可能性がありますので、ご注意ください。論文掲載料の支払いは論文が受理された直後になります。

(2) EPS 誌の Submission Code の入力

また、投稿 Web サイト上での投稿時に、論文掲載料の支払い条件を投稿者に選択していただきますが、会員料金を適用される場合は、会員としての支払い条件を選択の上で、EPS 誌用 Submission Code(*****) の入力を必ず行ってください。システムの都合上、投稿時に設定した支払い条件は投稿後に修正はできません。投稿時に非会員とされた場合は、論文受理時に非会員の論文掲載料が請求されますのでご注意ください。

この Submission Code は 5 学会共通で、かつ現時点では Springer 社は Submission Code を定期的に更新しない方針とのことです。学会員外に漏れないよう管理にご注意をお願いいたします。

(注 1) 英文契約書では会員の負担額は 200 ユーロと表記されておりますが、日本の著者の場合は一律ドルによる支払いとなります。論文投稿時に表示されるドル支払額は基本となる通貨ユーロに対して、為替レートをもとに毎週一度アップデートされます。著者に対しては、投稿時に論文投稿画面に表示されていたドル支払額が請求されます。また、請求額は論文投稿直後に著者に対してメールで通知されます。

(注 2) 論文受理時に論文掲載料の支払いを行います。クレジットカード払いと請求書による外国送金から選択できます。請求書による支払いを選択すると、別途手数料として 50 ドルが必要となります。これは Springer 社との契約書に不記載事項ですが、SpringerOpen の全ジャーナルに適用されるルールであるということです。ご理解をいただければ幸いです。

従来システム (Editorial Manager) による投稿論文の取扱いについて

テラ学術図書出版の EPS 誌 HP 経由で電子投稿システム "Editorial Manager" から投稿いただいた論文につきましては、10 月 31 日までに受理 (accepted) された論文までをテラ学術図書出版サイトで電子出版および冊子体出版させていただきます。11 月 1 日以降に受理された論文については全て SpringerOpen で 2014 年 1 月以

降に電子出版させていただくこととし、200 ユーロ相当の会員向け論文掲載料が適用されることとなります。カラーページチャージはカラーのページ数によらず一切発生いたしません。投稿時点と支払い条件が変わってしまうこととなりますが、オープンアクセス出版されること、およびカラーページの制限が無くなること等を考慮いただき、今般の体制の移行にご理解いただければ幸いです。

EPS 誌の出版は、会員の皆様の積極的なご協力なしには成功しえません。投稿手続きや論文掲載料に関する変更をはじめ、会員の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、EPS 誌が学術情報発信における国内外の大きな潮流を先導し、これまで以上に学術の発展に貢献することになると考えますので、今般の EPS 誌の体制移行についてもご理解を頂きまして、今後とも会員の皆様にご協力いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

(文責) EPS 誌運営委員 小田啓邦・村山泰啓

国際学術交流若手派遣事業の報告

九州大学大学院比較社会文化研究院

佐藤 雅彦

SGEPSS 国際学術交流若手派遣事業からの支援を頂き、2013 年 8 月 26 日から 8 月 31 日にかけてメキシコのメリダで開催された 12th Scientific Assembly of the International Association of Geomagnetism and Aeronomy (IAGA 2013) に参加しました。私は、“Theoretical and Experimental Rock Magnetism” セッションにおいて、“Hydrostatic pressure effect on magnetic hysteresis parameters of multidomain magnetite: Implication for crustal magnetization” というタイトルで口頭発表を行いました。マグネタイトの高圧下その場磁化測定実験の結果を用いて磁気異常ソースの議論を行った研究です。磁気異常研究・岩石磁気研究の専門家が多く出席する IAGA meeting で本研究の発表を出来た事は非常に良い経験になりました。貴重な機会を与えて下さった

SGEPSS 関係者の皆様にお礼を申し上げます。

今回は SGEPSS から支援して頂いて発表するという事で、いつも以上に発表準備をして望めたと思っています。メリダは非常に良いところで学会以外にも美味しい食事やきれいな建物・公園の景色など楽しむ事が出来ました。英語圏以外の国に行くのは初めての経験でしたが、スペイン語に関してはもう少し準備して行くべきだったと反省しています。以下では、IAGA 2013 での活動内容などを報告させていただきます。

これまでの磁場観測や室内実験の結果から、長波長磁気異常のソースは厚さ数十 km の厚い地殻磁化に起因していると考えられています。そのため詳細な議論を行うには、地殻深部の高温・高圧条件下での磁性鉱物の磁気的性質を知る必要が有ります。高温下その場での磁化測定実験は積極的に行われて来た一方で、高圧下その場での磁化測定実験は技術的に難しくこれまでほとんどデータが得られていませんでした。そこで私達の研究グループでは、近年開発した高圧セルを用い、高圧下その場磁気ヒステリシス測定実験を行いました。その結果、約 1 GPa までの系統的な磁気ヒステリシス測定に成功し、多磁区マグネタイト粒子に関して磁気ヒステリシスパラメータの圧力依存性を得ることが出来ました。この実験結果を用いる事で、地殻内での残留磁化緩和時間を定量的に計算する事が可能となります。計算の結果、数 km 以深の大陸地殻深部条件では多磁区マグネタイト粒子は 100 万年以内の地質学的に短い時間で粘性残留磁化を獲得する事が分かりました。この結果は、多磁区マグネタイト粒子が粘性残留磁化及び地球磁場による誘導磁化として磁気異常ソースに寄与している事を示唆します。今後は、地殻内に含まれるその他の磁性鉱物に関して同様の評価を行う事で、磁気異常ソースの解明をしていきたいと考えています。

学会初日だったせいかセッションの参加者がやや少なかったのは残念でしたが、岩石磁気研究の専門家である A. R. Muxworthy 博士から質問を頂き興味を持って頂けた事や、発表後に Q. Liu 博士から発表に関して意見を頂いた事は非常に良い経験になりました。海外の研究会で口頭発表するのは初めての経験でしたが、IAGA で発表して海外の研究者と議論が出来た事は私にとって大きな自信になりました。また、E.

Friis-Christensen 博士の SWARM mission に関するレクチャーを聴講できた事は、今後の研究を進展させていく上で非常に良い勉強になりました。今回の IAGA 2013 への出席を通じて得られた経験をこれからの研究に生かして、さらに発展させていくように努めたいと思います。

今回の発表内容は、私の博士論文研究の一部です。ご指導頂いた綱川秀夫教授（東工大）、共同研究者の小玉一人教授、西岡孝教授、山本裕二助教（高知大）、望月伸竜助教（熊本大）、出張をサポートして頂いた大野正夫准教授（九州大）にこの場をお借りしてお礼申し上げます。最後に、繰り返しになりますが、IAGA 2013 に出席する機会を与えて下さった、SGEPSS 若手派遣事業の関係者の方々にお礼申し上げます。



日本地球惑星科学連 2013 年大会 参加報告

Dept. of Geology,
University of California, Davis

松井 宏晃

筆者はこの度、SGEPSS の海外研究者招聘事業による援助を頂き、千葉県幕張市において 2013 年 5 月 18 日から 24 日まで開催された “日本地球惑星科学連合 2013 年大会” に参加させて頂きました。

本大会では International session の一つとして、“Earth and Planetary Cores Seen from Multi-disciplinary Approaches” が開催され、惑星中心核に対する様々な手法による研究の発表がなされました。このセッションは、核を対象として地磁気、古地磁気学、地震学、地球化学のそれぞれのアプローチから核に対する理解を深めるという趣旨の下に開催されました。近年の研究により、地震学においては内核から Inner Core Boundary にかけての地震波速度構造や、外核上部における低速度領域の存在が指摘されています。また、高圧実験や分子動力学を用いた数値実験などから、外核やマントル最深处を構成する液体金属の拡散（熱、粘性及び磁気）係数及び音波（P 波）速度のより詳細な見積もりが得られてきています。さらには、これらを念頭に置いたより詳細なダイナモシミュレーションが実施され、地球磁場の特徴を再現する為に必要な熱対流と組成対流の寄与の割合を解明しようとしてされています。現状では、これら異なる分野で得られた研究結果を矛盾なく説明する外核のモデルは提唱されておらず、本セッションでの発表は、参加研究者を含むより広汎な研究者の参加により分野を横断した研究協力が重要になることを示唆するものでした。

本セッションにおいて、筆者は、ダイナモシミュレーションにおけるより現実的な Subgrid-scale (SGS) モデリングについての招待講演を行いました。外核における対流は、その小さな粘性により、地表からでは観測不能な小スケールの対流が存在すると考えられており、この小スケールの対流が非線形項を通じて大きな空間スケールの対流及び磁場生成に与える影響を正

しくモデル化することが必要です。本講演では、この SGS モデリングに対し、線形項である小スケールの浮力が乱流に与える影響を Reynolds stress (移流項) のモデリングに際し考慮に入れる必要があり、計算結果を大きく改善されることを紹介しました。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった SGPSS 海外研究者招聘事業に心より御礼を申し上げますとともに、今後も多くの海外研究者の皆様が日本において研究発表を行い、日本の多くの研究者と議論を持つ機会を得られることを祈念いたします。



IAGA 12th Scientific Assembly 報告 山崎俊嗣

IAGA 12th Scientific Assembly が、メキシコのメリダで 8 月 26 日～31 日に開催され、459 人の参加がありました (うち日本から 31 人)。

会期中に開かれた総会にて、本学会の河野長名誉会員が、永年の IAGA への貢献により IAGA

名誉会員に推挙されました。我が国からは、いずれも当学会名誉会員の故永田武先生、故福島直先生に続き 3 人目の荣誉です。また、2017 年の IAGA は IAMAS (気象・大気科学)、IAPSO (海洋物理) と合同で、南アフリカ共和国のケープタウンで開催されることが決定されました。なお、2015 年の IUGG はチェコのプラハで 6 月 22 日-7 月 2 日に開催されることがすでに決定しています。

今回からの新しい試みとして、研究集会の直前に大学院博士課程学生を対象とした IAGA Summer School が企画され、たいへん成功であったということでした。本学会からは南会員が参加され、以下にその感想を寄稿いただきましたので、是非ご覧ください。今後、2 年に 1 回 IAGA または IUGG と合わせて開催予定ということですので、博士課程学生はどしどし応募して下さい。

IAGA Summer School 2013 in Merida に参加して 京都大学大学院理学研究科 南 拓人

8 月 26 日から 31 日まで、メキシコのメリダにおいて IAGA 第 12 回 Scientific Assembly が開かれました。この学会の直前には、IAGA 初の試みとして、約一週間にわたる博士過程に在籍する学生のためのサマースクールが企画されました。私は、IAGA の Executive Committee から招かれ、幸運にもこのサマースクールに参加する機会をいただきました。

サマースクールに参加したのは、地球電磁気学を志す世界各国の学生たちです。参加したのは、アメリカ、メキシコ、ペルー、チリ、ブラジル、アルゼンチン、オーストリア、スイス、フランス、スペイン、インド、中国、日本からの計 21 人で、まさに世界中からというにふさわしい顔ぶれでした。メキシコのメリダで開催されたこともあり、特に中南米から多くの学生が参加していました。日本からの参加者が私一人だったこともあり、やや緊張して臨んだサマースクールでしたが、最初にホテルで出会ったオーストリアか

らの参加者に声をかけてもらい、すぐに他の参加者と仲良くなることができました。

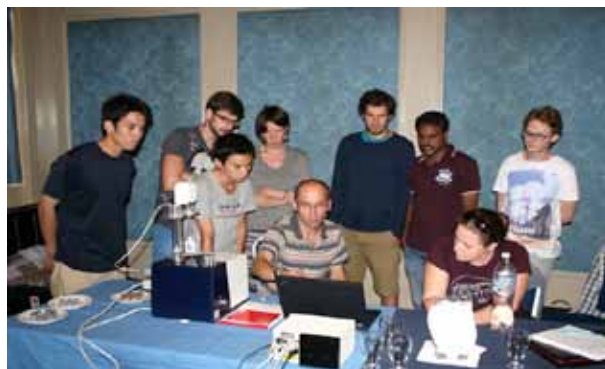
IAGA サマースクールの世話人の一人である Prof. Petrovsky が参加する学生のためにホテルを手配してくだっており、21人の学生が一週間、寝食を共にしました。日中は朝9時から午後5時まで、地球電磁気に関する講義を英語で受け、夕方からは他の参加者とメリダ観光という日々でした。大変楽しく、充実したサマースクールでしたが、振り返ればその魅力は以下の3点にあったと感じています。

まず一点目は、完全に英語漬けの一週間（学会期間を含めると二週間）を送れた点です。研究者にとって、英語がいかに重要なツールかを身にしみて感じた一週間となりました。一口に英語と言っても、国、人によって話し方も話す内容も異なります。多様な学生との交流は、英語の学習に加え、何より、異なる背景を持つ研究者とのコミュニケーションの訓練になったと感じています。

二点目の魅力は、サマースクールの講義それ自体です。第一線で活躍する IAGA の研究者達から、地球電磁気学の幅広い分野に関する講義があり、私の場合は、これまで学ぶ機会の少なかった古地磁気、岩石磁気の研究について、初めてきちんと基礎を学ぶことができました。

三点目の魅力は、何より、サマースクールに参加している学生との交流です。参加者のほとんどが博士課程の学生であり、今後の IAGA を担わんとする面々です。彼らとの交流は大変楽しく、サマースクール後の IAGA の学会中も、お互いの発表内容について大いに議論できました。彼らとは今後も様々な国際学会で再会し、情報交換を行えると期待しています。

最後になりましたが、この場を借りてサマースクールに招いてくださった IAGA の Executive Committee の皆様に心より感謝いたします。今後もこのサマースクールで、多くの日本人学生が貴重な経験を得ることを祈っています。



(写真一枚目は岩石の磁化率 (susceptibility) 測定の実験風景。二枚目は IAGA サマースクールの参加者達と。)

「地磁気・古地磁気・岩石磁気研究会」 分科会報告

菅沼悠介・野木義史

日時：平成 25 年 8 月 19 日（月）～ 21 日（水）

場所：八王子セミナーハウス

参加者：35名

平成 25 年 8 月 19 日～ 21 日に、東京都八王子市の八王子セミナーハウスにて、2013 年地磁気・古地磁気・岩石磁気夏の学校（第 45 回）が開催された。学生 15 名を含む 35 名が参加し、3 件の招待講演を含めて、16 件の口頭発表と 11 件のポスター発表が行われた。

一日目の午後は、気象庁地磁気観測所の源泰拓さんによる招待講演「地磁気観測百年」が行われた。当分科会において身近でありながら、実はよく知らないことの多い地磁気観測・測定に関する貴重なお話を伺った。その後は 5 件の口頭発表があり、火山岩や考古試料を用いた古地磁気方位・強度復元、残留磁化測定データ処理、および海底堆積物中の生物源細菌に

関する話題などが活発に議論された。夕食後は、ポスターセッションということで、ポスター発表者による1分間のプレゼンと、各ポスター前での活発な議論が行われた。

二日目は、講演会場を国立極地研究所に移し、招待講演として、国立極地研究所の本山秀明さんと片岡龍峰さんのお二人に、それぞれ「南極氷床コアの話」と「極限的な宇宙環境による地球環境変動の可能性」という題目でお話し頂き、南極氷床コアの掘削から得られる様々な情報や、宇宙環境が地球環境に与えるインパクトについて、普段聞くことができない貴重なお話を伺った。その他には、専修大学の佐藤暢さんによる「海底岩石研究の最近のトピックス」や火砕流を用いた古地磁気強度復元などのトピックが活発に議論された。また、西南極ロス海で計画されている棚氷上からの堆積物掘削計画（ANDRILL）への日本参加の可能性についての講演もあった。その後は、南極氷床コアを貯蔵する低温室、古地磁気・岩石磁気や宇宙線生成核種分析の設備、および南極観測物資の集積庫の見学などを行った。見学後、八王子セミナーハウスに戻り、バーベキューをしながらの懇親会を開催し、参加者間の親睦を深めた。

三日目午前には、5件の口頭発表が行われ、主に海底における地磁気・地震波・電気伝導度探査に関係する研究トピックや、南極氷床コア中の宇宙線生成核種から見た地磁気変動などのトピックスに関して活発な議論が行われた。また、次の開催地についても話し合いが持たれ、最終的に東京大学大気海洋研究所（山崎俊嗣教授）に担当頂くことに決定した。



国立極地研究所「南極・北極科学館」の前での参加者集合写真

「宇宙科学奨励賞」候補者推薦依頼

公益財団法人宇宙科学振興会では、宇宙科学分野で優れた研究業績を挙げ、宇宙科学の発展に寄与した若手研究者を顕彰し、宇宙科学奨励賞を授与いたします。ここに2013年度の第6回宇宙科学奨励賞候補者のご推薦を募集いたします。詳細は当財団のホームページ (<http://www.spss.or.jp>) に掲示しておりますが、当奨励賞の概要は以下の通りです。今年度より副賞賞金を30万円に増額いたしました。皆様の周りで優れた業績を挙げ将来の活躍が期待される若手研究者をご推挙いただけますようお願い申し上げます。

表彰の趣旨： 宇宙理学（地上観測を除く）分野及び宇宙工学分野で独創的な研究を行い、宇宙科学の進展に寄与する優れた研究業績をあげた若手研究者個人を顕彰。

授与機関： 公益財団法人 宇宙科学振興会
候補者： 上記分野で優れた業績をあげた当該年度の4月1日現在37歳以下の若手研究者個人。候補者の推薦は他薦に限る。

業績の審査： 業績の審査は、推薦理由となる研究業績に関連して発表された論文に基づいて、当財団が設置する選考委員会において行う。

賞の内容： 授賞は原則として毎年宇宙理学関係1名、宇宙工学関係1名とする（ただし適格者のいない場合は受賞者なしとする場合がある）。受賞者には本賞（賞状と表彰楯）および副賞（賞金30万円）が贈られる。

推薦締切日： 2013年10月31日（木）必着。

表彰式： 選考結果は2014年1月に推薦者と受賞者に通知するとともに、当財団ホームページにおいて発表する。その後2014年3月に表彰式を行い、受賞者には受賞対象となった研究に関する講演をして頂く。

なお、推薦の手続きの詳細については財団のホームページ (<http://www.spss.or.jp>) をご覧いただき、推薦書式をダウンロードして必要事項を記載の上、(1) 候補者の略歴、(2) 論文リスト、および(3) 推薦の対象となる論文の別刷等必要書類を添付の上、電子メールにて投稿下さい。

お問い合わせ先および推薦書送付先：

〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台

3-1-1

公益財団法人宇宙科学振興会 事務局

TEL: 042-751-1126

FAX: 042-751-2165

E-mail: admin@spss.or.jp

第21回衛星設計コンテスト 最終審査会のお知らせ

衛星設計コンテストは、高校生から大学院生までの学生を対象にした、コンテスト形式の教育プログラムです。小型衛星をはじめとする様々な宇宙ミッションのコンセプト・アイデア・設計の優れた作品に対して、表彰を行っています。全国から応募された作品に対し、関連学会・研究機関・企業等の専門家からなる審査委員が、書面による1次審査を行います。最終審査会当日では、1次審査を通過した作品について、各チームが発表・質疑応答を行い、その中から最も優秀な作品を選出します。昨年の最終審査会では、本学会員が指導する学生がアイデア大賞を受賞するなど、本学会からの積極的な参加も得ており、今年度の受賞も期待されるところで

す。

昨年に引き続き、今年度も相模原市立博物館にて最終審査会を行うことになりました。日時については以下の通りとなっており、入場は無料です。詳細については、10月上旬に以下のURLに掲載される予定となっております。皆様のご来場をお待ちしております。

日時：11月9日（土）9:30～18:00（予定）

場所：相模原市立博物館（神奈川県相模原市中央区高根3-1-15）

URL：<http://www.satcon.jp>

（実行委員 坂野井和代、企画委員 中田裕之）

(空 白 ペ ー ジ)

学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール
積極的な応募・推薦をお願いします。詳細は学会ホームページを参照願います。

賞・事業名	応募・推薦／問い合わせ先	締め切り
長谷川・永田賞	会長	2月28日
田中館賞	会長	8月31日
学会特別表彰	会長	2月28日
大林奨励賞	大林奨励賞候補者推薦委員長	1月31日
学生発表賞	推薦なし／問合せは運営委員会	
国際学術交流若手派遣	運営委員会	5月11日、7月20日、10月10日、1月23日
国際学術交流外国人招聘	運営委員会	若手派遣と同じ
SGEPSS フロンティア賞	SGEPSS フロンティア賞候補者推薦委員長	2月28日
国際学術研究集会	運営委員会	7月20日

SGEPSS Calendar

- '13-11- 2 ~ 5 第134回 SGPESS 総会および講演会 (高知)
- '13-11-11 ~ 15 COSPAR regional Symposium (Bangkok, Thailand)
- '13-11-12 ~ 15 第4回極域科学シンポジウム (東京)
- '13-11-18 ~ 13 磁気圏・電離圏シンポジウム 2013 (東京工業大学・地球生命研究所 (ELSI))
- '13-11-18 ~ 22 International CAWSES-II Symposium (名古屋)
- '13-12- 9 ~ 13 AGU Fall meeting (San Francisco, USA)
- '14-4-28 ~ 5-2 日本地球惑星科学連合 2014 年大会 (横浜)
- '14-7-28 ~ 8-1 AOGS 11th Annual Meet (札幌)
- '14-11-10 ~ 14 第12回国際サブストーム会議 (志摩)

地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS)

会長 中村正人 〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台 3-1-1 宇宙航空研究開発機構
宇宙科学研究所

TEL: 050-3362-3936 FAX: 042-759-8205 E-mail: nakamura.masato@jaxa.jp

総務 篠原育 〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台 3-1-1 宇宙航空研究開発機構
宇宙科学研究所 学際科学研究系

E-mail: iku@stp.isas.jaxa.jp

広報 吉川一朗 (会報担当) 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学
大学院理学系研究科地球惑星科学専攻

TEL: 03-5841-4577 FAX: 03-5841-4577 E-mail: yoshikawa@eps.s.u-tokyo.ac.jp

吉川顕正 (会報担当) 〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学
大学院理学研究院地球惑星科学部門

TEL: 092-642-2672 FAX: 092-642-4403 E-mail: yoshi@geo.kyushu-u.ac.jp

尾花由紀 (会報担当) 〒572-8530 大阪府寝屋川市初町 18-8 大阪電気通信大学
工学部基礎理工学科

TEL: 072-824-1131 E-mail: obana@isc.osakac.ac.jp

運営委員会 (事務局) 〒650-0033 神戸市中央区江戸町 85-1 ベイ・ウイング神戸ビル 10 階
(株) プロアクティブ内 地球電磁気・地球惑星圏学会事務局

TEL: 078-332-3703 FAX: 078-332-2506 E-mail: sgepss@pac.ne.jp

賛助会員リスト

下記の企業は、本学会の賛助会員として、
地球電磁気学および地球惑星圏科学の発展に貢献されています。

(有) テラテクニカ (2口)
〒208-0022
東京都武蔵村山市榎3丁目25番
地1
tel. 042-516-9762
fax. 042-516-9763
URL <http://www.tierra.co.jp/>

Exelis VIS 株式会社
東京オフィス
〒101-0064
東京都千代田区猿楽町2-7-17
織本ビル3F
tel. 03-6904-2475
fax. 03-5280-0800
URL <http://www.exelisvis.com/>

クローバテック (株)
〒180-0006
東京都武蔵野市中町3-27-26
tel. 0422-37-2477
fax. 0422-37-2478
URL <http://www.clovertech.co.jp/>

(有) テラパブ
〒158-0083
東京都世田谷区奥沢5-27-19-2003
tel. 03-3718-7500
fax. 03-3718-4406
URL <http://www.terrapub.co.jp/>

日鉄鉱コンサルタント (株)
〒108-0014
東京都港区芝4丁目2-3NOF 芝ビル5F
tel. 03-6414-2766
fax. 03-6414-2772
URL <http://www.nmconsults.co.jp/>

日本電気 (株) 宇宙システム事業部
〒183-8501
東京都府中市日新町1-10
tel. 042-333-3933
fax. 042-333-3949
URL <http://www.nec.co.jp/solution/space/>

富士通 (株)
〒261-8588
千葉県美浜区中瀬1-9-3
富士通 (株) 幕張システムラボラトリ
tel. 043-299-3246
fax. 043-299-3011
URL <http://jp.fujitsu.com/>

丸文 (株) システム営業本部
営業第一部計測機器課
〒103-8577
東京都中央区日本橋大伝馬町8-1
tel. 03-3639-9881
fax. 03-3661-7473
URL <http://www.marubun.co.jp/>

明星電気 (株) 技術開発本部
装置開発部
〒372-8585
群馬県伊勢崎市長沼町2223
tel. 0270-32-1113
fax. 0270-32-0988
URL <http://www.meisei.co.jp/>